

『痛快!コンピュータ学』

坂村健著／集英社文庫

本学の学生諸君は、コンピュータやインターネットといった情報技術（IT）を便利に使いこなしていますよね。しかし、コンピュータとは何ですか？インターネットとは何ですか？ときかされた時に的確に答えられるでしょうか？「何かなんて知らなくても、道具として便利に使っているんだから、それで十分」というのも、一般の人ならばひとつの見識と言えましょう。しかし、皆さんは大学生、それも工学部の学生です。自分が使っている道具について、それが何であるか、どのような原理で動いているか、興味を持って欲しいと思います。ITは非常に多くの要素から成り立っていますから、それらについて深く知ろうとすると、大変な勉強が必要です。それでも、せめて基礎的な事項については、知っていて欲しいものです。

さて、それではITの基礎的な知識を身につけるのに、どのような本を読めば良いのでしょうか。大学の売店でも、街中の本屋さんでも、ITに関する書籍は数多く売られています。中でも多いのは「○○の使いこなし」といった、いわゆるHOWTO本です。コンピュータやソフトウェアの操作について丁寧にわかりやすく書いてあるのですが、仕組みや原理にはほとんど触れられていません。では、「○○教科書シリーズ」といった大学の教科書として使われる本はどうでしょうか？こちらはITの原理や概念について沢山のことが整然と書かれています。しかし、これを独学として読むには、文体が硬いし無味乾燥で、眠くなってしまいそうです。ページ数が限られている上に、授業で使われることを前提としていますから、知識が列挙的になるのは教科書の宿命とも言えます。授業では、先生の話が潤いの役割を果しているわけです（誰ですか、それでも眠たいなんて言っているのは!）。

『痛快!コンピュータ学』は、ITに関する基礎的な原理や概念が網羅的に、かつ、丁寧にわかりやすく気楽に読める文体で書かれた「いいとこ取り」な本です。著者はTRONで有名な坂村健先生。「坂村さんが大学で教えているコンピュータ科学の講義をレベルを下げずに、しかも面白く、分かりやすい本にしてみませんか」という「無茶な注文」に乗せられて生まれたのがこの本である、とまえがきにあります。これが、まさに、この本を言い表わしています。IT関係の多くの書籍は、

出版されてから数年で内容が現状に合わなくなってしまう。それだけITの進歩、またそれに関わる社会の変化が速いわけです。しかし一方で、ITに関する普遍的な原理、概念も確固として存在しており、それらは時間が経っても色褪せることはありません。本書は、このような普遍的な原理や概念を抽出して解説しています。「本書の内容は少なくとも、もう10年経っても通用すると信じている」と、あとがきでも書かれているように、出版された2002年から7年が経過した今も、本書の内容は古さを感じさせません。

なお、本書は、1999年に集英社インターナショナルから出版された同名の単行本を文庫化したものです。記述内容は単行本とほぼ同じで、価格は安くなっていますので、小さい字が苦にならない若い諸君には文庫版で十分ではあるのですが…、残念なことに、文庫版には、単行本のカバーイラストや挿絵が引継がれていません。単行本のカバーには江口寿史のイラスト、挿絵にはさいとう・たかをの劇画や山科けいすけの4コマ漫画が使われていました。これほど豪華なメンバのイラストや劇画・漫画が工学書に使われることなど、通常はあり得ません。単行本はすでに絶版になっていますので新品として入手することは不可能ですが、もしも古本屋で見つけることができたなら迷わず買うことをお勧めします。

執筆者紹介

湯川 高志

電気系准教授。専門領域は、知識処理、自然言語処理、並列コンピューティング。

『書名』 著者名(翻訳者名) 出版社または文庫・シリーズ名 出版年 税込価格
『痛快! コンピュータ学 global standard・computer science』坂村健著 集英社
文庫 2002年 720円

ブックガイド目次へ